



---

滋賀県立大学  
地域共生センター  
年報2024

---

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 目次                             | 1  |
| 1 地域共生センター年報 2024 の発行にあたって     | 3  |
| 【2024 年の特集記事】                  |    |
| 特集「近江楽座」20 周年を迎えて              | 4  |
| 2 事業紹介                         |    |
| 2-1 事業一覧                       |    |
| 2-1-1 地域課題の解決と地域共生等に関する教育および研究 | 6  |
| 2-1-2 地域における人材育成等              | 7  |
| 2-1-3 地域との連携および交流              | 7  |
| 2-1-4 生涯学習                     | 7  |
| 2-1-5 他大学等の連携                  | 7  |
| 2-2 地域教育プログラム                  |    |
| 2-2-1 概要                       | 8  |
| 2-2-2 関連科目の履修登録状況              | 9  |
| 2-2-3 地域共生論                    | 9  |
| 2-2-4 地域基礎科目                   | 10 |
| 2-2-5 地域志向科目                   | 11 |
| 2-2-6 近江楽士（地域学）副専攻             | 11 |
| 2-2-7 近江環人地域再生学座               | 12 |
| 2-2-8 近江楽座                     | 13 |
| 2-3 SDGs地域化拠点の取組               |    |
| 2-3-1 SDGsに関する取組の全体像           | 15 |
| 2-3-2 キャンパスSDGsプロジェクト2024      | 16 |
| 2-3-3 教育、研究、地域への波及             | 18 |
| 2-4 学生への食糧支援の取組                |    |
| 2-4-1 概要                       | 19 |

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 2-4-2 支援の経過               | 20 |
| 2-5 地域連携                  |    |
| 2-5-1 滋賀県立大学地域連携相談窓口の相談対応 | 21 |
| 2-5-2 県内自治体、企業、団体等との連携    | 22 |
| 2-6 生涯学習                  |    |
| 2-6-1 公開講座                | 23 |
| 2-6-2 公開講義                | 24 |
| 2-7 他大学等との連携              |    |
| 2-7-1 環びわ湖大学・地域コンソーシアム    | 24 |
| 2-7-2 びわ湖東北部地域連携協議会       | 24 |
| 3 スタッフ紹介                  |    |
| 3-1 地域共生センターの体制           | 25 |
| 3-2 教職員の活動                | 26 |
| 3-2-1 受賞、著書、論文            | 26 |
| 3-2-2 学会発表                | 26 |
| 3-2-3 研究会、講演会、特別講義等での発表   | 26 |
| 3-2-4 社会への貢献（各種委員会など）     | 27 |
| 3-2-5 マスメディアとの対応          | 27 |
| 3-3 2024年度教職員メッセージ        | 28 |

## Ⅰ 地域共生センター年報 2024 の発行にあたって

滋賀県立大学は、令和7年度（2025年度）で開学30周年の節目を迎えることができました。30年の歩みを振り返り、その重みを実感しています。ここまで本学を支えてきていただいたすべての皆様に、心から感謝を申し上げます。

現在の地域共生センターが関わる様々なプログラムや活動も、開学以来の歩みの中で、一貫して地域に密着して行われてきた教育研究活動をベースに構築されています。

学生の主体的な地域活動である「近江楽座」は、地域でのフィールドワークや演習、研究がベースとなって、平成16年度（2004年度）に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）に採択されたことからスタートしました。平成19年度（2007年度）以降は本学独自のプログラムとして、現在まで22 年間で延べ1万人を超える学生が活動を展開してきています。社会人と大学院生がともに学ぶ「近江環人地域再生学座」も、地域に根差した教育研究をベースとして、地域資源を活用して地域課題の解決に挑戦する人材の育成を目指して、平成18年度（2006年度）に文部科学省の地域再生人材創出拠点形成プログラムに採択されたことからスタートしています。平成24年度（2012 年度）からは滋賀県市町村職員互助会の助成をいただいて、現在開講20年目を迎えています。これまで約180名が「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」の称号を受けています。

それぞれ20年を超えて継続される中で、活動内容やコミュニティとの関わり、履修科目や内容も変化してきていますが、これまでの実績を基礎としつつ、今後の展開について考えるべき節目にあると考えています。これからも本学の特徴として一層充実した活動やプログラムとなるよう、学生の声や教職員の知恵を集めて、さらに改善を図ってまいります。

また、近江環人地域再生学座の実績も活かし、30 周年を迎えた令和 7 年度（2025年度）には、新たに社会人向けのリカレント教育プログラムをス

タートしています。令和5 年度まで2年間実施したプログラムを基に、地域や企業の課題解決に向け、県内企業の中堅若手社員を対象に次代のリーダー養成を目指して、今回は、県内の経済団体、金融機関等のご協力を得て、より幅広くご参加を呼び掛けて開講しています。今後、関係の皆様のご意見をお伺いして、さらにブラッシュアップを図っていきたいと考えています。

地域共生センターは、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」ことを基本理念とする滋賀県立大学における、地域の皆様との連携の窓口です。自治体、企業、地域の皆様からいただくご相談は年々増えており、その内容も、様々な事業への本学教員の参画や学生参加の依頼をはじめ、小・中・高校生の体験学習や探求学習への協力や受入の依頼など、多岐にわたっています。ご相談いただく内容や課題に応じて、地域連携コーディネーターを中心に連携調整に努めています。今日まで地域の皆様と築いてきた関係を大事に、さらに連携を密にして、地域の活性化、課題解決に貢献できるよう取り組んでまいります。

これからの大学を取り巻く社会環境は、これまでの30年とは大きく異なります。大学自ら変革を重ねつつ、地域社会からのご期待には変わることなく応えられる存在でなければなりません。地域共生センターとして、地域住民の皆様、自治体、企業、団体等多くの方々から格別のご支援ご協力をいただいていることにあらためて感謝を申し上げますとともに、引き続き地域の皆様に支えていただけるよう、関係する教職員の力を合わせて取り組んでまいります。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和 8 年 3 月

滋賀県立大学地域共生センター

センター長 中 嶋 毅



# 【2024 年の特集記事】

## 特集 「近江楽座」20周年を迎えて

### はじめに

近江楽座は2004年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に採択されたことから始まり、2024年に20周年を迎えた。この間、継続・新規を含め、毎年20件程度のプロジェクトが採択され、延べ数は448件を数える。また、その活動に参画する学生は延べ約1万人となった。

近江楽座では学生たちが自主的にチームを組織し、地域に入って、地域の人とともにそこにある課題の解決を目指す活動を展開している。その方向性を示すのが「教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための目標」として、以下のように定められている。

- ・地域の課題に大学・学生が取り組み、地域の活性化に向けてともに活動する。
- ・学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- ・大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。



政所茶レン茶の茶摘み作業

### 「活動のバトンリレー」ワークショップ

今回近江楽座20周年を記念し、「活動のバトンリレー」をテーマに掲げて、政所茶レン茶“一、とよさと快蔵プロジェクト、おとくらプロジェクトおよびボランティア部 Harmony の4つの活動チームで現役学生、卒業生および地域の方が参加するワークショップを行い、チームごとにこれまでの活動の振り返りと今後の可能性やビジョンについて語り合った。

まず振り返りとしては、「活動の立ち上げ」、「スタイルの確立」、「関係性の拡大」および「変化への対応」といった話題について、学生側と地域側の双方から様々な意見が交わされた。「活動の立ち上げ」では、学生が各地域の魅力に気づき、「もったいない」、「もっと活用できそう」という素朴な思いを持ったこと、それに対して地域側からも「まずは3年活動を継続してくれるなら（政所）」、「無理なく楽しみながら（Harmony）」と小さな期待を込めて一緒にやろうという気持ちが芽生えたことが共通点として上がっていた。「スタイルの確立」と「関係性の拡大」については、小さな積み重ねの中から徐々に自分たちらしい活動が根付き、地域の方にもそれを受入れていただきながら関係を育み、密度を増し、範囲を広げていった経緯が見られた。また活動する中で発生するピンチを一緒に乗り越えることも重要な要素として取り上げられていた。「変化への対応」については、コロナ禍による活動制限への対応が大変だったことが語られ、その中でもネット販売やミーティングのオンライン化などの対応を行うなどの工夫することで、難局を乗り越えたエピソードが多く語られた。



ボランティア部Harmony クリスマスコンサート



おとくらプロジェクト 交流会



とよさと快蔵プロジェクト 改修工事

また近江楽座の活動により地域の中に「見えてきた新たな風景」については、地域で活動する学生の姿を見て、地域の人たちにも一緒にやろうという気持ちが生まれ、その相乗効果で新たな活動が始まったり、外部からの見学者や移住者が増加したりといった変化も見られている。このようにはっきりと目に見える効果は限られるが、近江楽座の活動は確実に地域を変化させる源泉となっていることが感じられた。

## 近江楽座 20 周年記念書籍販売中

上記のワークショップのほか、20 年の近江楽座の活動の軌跡をまとめた書籍「地域と関わる学生たちのバトンリレー」を発刊した。ここまでの経緯を様々なデータを参考に振り返り、またその時々に関わっていただいた関係者からのコメントや思い出をまとめた集大成となっている。近江楽座の活動に関係された方、興味を持たれた方にはぜひお手にとっていただきたい。

「地域と関わる学生たちのバトンリレー」（現代図書）

定価 1,600 円＋税

発行日：2025/03/28

仕様：B5 判並製 ページ数：88

ISBN：978-4-86299-045-7

現代図書ホームページより購入可→





## 2 事業紹介

### 2-1 事業一覧

#### 2-1-1 地域課題の解決と地域共生等に関する教育および研究

##### 1. 地域教育プログラム

###### (1) 地域教育プログラム(基礎)

地域教育プログラムは、地域での実践を通して現実に生起する諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養うことを目的にしている。「基礎」では1年次の全学部学生約650人が学部の枠を超えてグループワークを通じ一緒に学ぶ「地域共生論」、選択科目の「地域コミュニケーション論」をはじめとする地域基礎科目で基礎的な能力を養う。



地域共生論 交流センターホールでの授業風景

###### (2) 近江楽士(地域学)副専攻

地域教育プログラムの「展開」「応用」に位置付ける全学・全学科対象の未来志向の学びのプログラム。実社会に必要なノウハウを地域から学び、主体的に考え行動し、課題を解決するための学びを提供する。

コミュニティ・ネットワーク(CN)コースは、地域を客観的に分析し、人材や資源を結び合わせて地域再生に向けた取組をデザインするネットワーク力を身に付ける。

ソーシャル・アントレプレナー(SE)コースは、起業家的精神をもって起業や地元企業等でリーダーシップを発揮する起業力を身に付ける。

この副専攻を修了し所属学科の卒業要件を満たすことで「近江楽士(コミュニティ・ネットワーク)」、「近江楽士(ソーシャル・アントレプレナー)」の称号が付与される。

###### (3) 近江環人地域再生学座

本学の大学院生や社会人を対象に、地域再生のリーダーとなる資質を有した人材「近江環人(コミュニティ・アーキテクト)」を育成するもので、研究科横断による枠組みで地域再生や地域活性化のための必要な知識と技能を総合的・体系的に習得できる副専攻カリキュラム。なお、学座修了生を中心に結成された特定非営利活動法人コミュニティ・アーキテクトネットワーク(NPO 法人環人ネット)が、地域での活動連携や大学とのつなぎ役などで大きな役割を果たしている。



近江環人 実践現場体感特別講義Ⅱ vision kiondにて

###### (4) 近江楽座

地域貢献を目的とする学生主体の地域活動を全学的に支援(活動助成・コンサルティング・情報発信と共有)する教育プログラム。平成16年度に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」事業として実施し、平成19年度からは本学の独自予算で継続している。事業の目標としては、①地域の課題に学生・大学が取り組み、地域の活性化に向けて共に行動する②学生が地域の方々と一緒に行動することにより、学内だけでは学べないことを体験する③大学と地域が共同してよりよい地域づくり・人づくりにつながる仕組みをつくる、の3つがある。毎年20を超えるプロジェクトがまちづくり、健康福祉医療、環境保全、農業振興、被災地支援など様々な分野で、県内外、海外までもフィールドにして活動を続けている。



近江楽座 地域博物館プロジェクト ヨシ刈りイベント



近江楽座 BAMBOO HOUSE PROJECT  
放置竹林整備と竹の遊具制作

## 2.SDGs 達成に向けての取組

世界共通の目標である SDGs に関しては「地域に根ざし地域に学び、地域に貢献する」大学として、SDGs の地域化拠点を目指して平成 30 年に滋賀県立大学 SDGs 宣言をした。持続可能な地域社会づくりに貢献する人づくりを目指す前記 1 に記載の様々な地域教育プログラムのほか、キャンパス SDGs プロジェクト、SDGs に関連した映画上映によるソーシャルシネマダイアログ、ゲームを用いて学ぶ SDGs 連続講座、出前講座など地域の人材育成の事業などにも取り組んでいる。

## 3.地域づくり等調査研究

本学の知的資源を生かし、自治体、NPO、経済団体等と連携し受託研究等を実施している。

## 2-1-2 地域における人材育成等

前記 2-1-1 の 1「地域教育プログラム」における近江環人地域再生学座によるまちづくりの担い手育成の取組、前記 2-1-1 の 2「SDGs 達成に向けての取組」に記載の地域において SDGs の視点も持って活躍する人材育成のための連続講座、出前講座などの事業を実施している。

## 2-1-3 地域との連携および交流

### 1.地域連携相談窓口の設置

平成 30 年度より地域共生センターに地域連携相談窓口を設けて、県や各市町、関係団体等からの相談に一元的に対応し連携調整にあたっている。

### 【 地域連携窓口の連絡先 】

滋賀県立大学地域共生センター

TEL:0749-28-9851 FAX:0749-28-0220

e-mail:chiiki\_koken@office.usp.ac.jp

## 2.市町等との包括連携協定

「地域貢献」を取組の大きな柱とする本学として、県内各市町と地域の課題や特性等を踏まえた具体的な連携・協力関係や体制を明確にし、組織的な連携を推進するため包括連携協定の締結を進め、随時意見交換を行っている。また、関係団体とも連携協定を結び、取組を推進している。

## 2-1-4 生涯学習

人生 100 年時代と言われ、地域住民の生涯学習や現役世代のリカレント教育など多様なニーズに対応することも学の使命である。公開講座や公開講義など、地域に貢献する本学として、社会情勢の動きや受講生の声を踏まえながら係教員の協力を得て本学の有する知的資源をもとにこれら生涯学習支援の取組の充実を図っている。また、社会人を対象としたリカレント教育についても関係団体や企業等と連携し取組を進めている。

## 2-1-5 他大学等の連携

### 1.環びわ湖大学・地域コンソーシアム

県内 14 大学と県、市町、関係団体で構成される環びわ湖大学・地域コンソーシアムに参画し、他大学との連携により地域課題の解決に向けた支援や単位相互など各種事業に取り組んでいる。

### 2.びわ湖東北部地域連携協議会

びわ湖東北部地域の 5 大学、県、3 市、2 商工会議所の連携によって、SDGs を活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に向け各種事業に取り組んでいる。



## 2-2 地域教育プログラム

### 2-2-1 概要

これからの時代を生きる若い世代には、これまでの仕組みの延長線上に自らの能力を磨くだけでなく、変化する時代を生き抜き、世界共通の目標である SDGsの達成のためにも持続可能な社会の創造を担う能力と資質を養うことが求められている。本学では、この課題に応えるためこれまでの専門性を身につけ俯瞰的に物事を見る能力を養うことに加えて、「コミュニケーション力」「構想力」「実践力」の3つの力から養う【未来志向の変革力】を身につけた人材を育成するための地域教育プログラムを実施している。

このカリキュラムマップは次のとおりで、全学必修の地域共生論や地域基礎科目からなる【基礎】、近江楽士副専攻科目や学部学科での地域志向科目からなる【展開】、そして具体的な地域でのフィールドワークなどを主体とした地域デザイン A~D の【応用】で構成されている。



「世界遺産のまちづくり・ひとづくり」  
彦根城フィールドワークの様子 2024.10.5

#### <地域教育プログラム カリキュラムマップ>

| 学部/学科                        | コース別     | 授業科目名                       |                    |                            |                                            |                                          |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
|------------------------------|----------|-----------------------------|--------------------|----------------------------|--------------------------------------------|------------------------------------------|--------------|------------|--------------------|----|-------------------|--------------------|----|--|--|
|                              |          | 1年                          |                    |                            | 2年                                         |                                          |              | 3年         |                    |    | 4年                |                    |    |  |  |
|                              |          | 前期                          | 地域活動実践チーム<br>(前・後) | 後期                         | 前期                                         | 地域活動実践チーム<br>(前・後)                       | 後期           | 前期         | 地域活動実践チーム<br>(前・後) | 後期 | 前期                | 地域活動実践チーム<br>(前・後) | 後期 |  |  |
| 各学部各学科での卒業論文・制作              |          |                             |                    |                            |                                            |                                          |              |            |                    |    | 各学部・学科での卒業論文・卒業制作 |                    |    |  |  |
| インターンシップ<br>実習科目<br>(必修は1単位) |          |                             |                    |                            | ■キャリアステップC                                 |                                          |              | ■インターンシップE |                    |    |                   |                    |    |  |  |
| 応用                           | 地域学副専攻   | コース共通<br>(1コースにつき1科目必修)     |                    |                            |                                            | ■地域デザインA(実践チーム(前期)), B(前期), C(後期), D(前期) |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
| 展開                           | 地域志向専門科目 |                             |                    |                            | ■地域志向の専門科目<br>(各学部各学科の専門科目であり、副専攻要件には含まない) |                                          |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
|                              | 地域学副専攻   | ソーシャル・アントレプレナー<br>(SE2-3)   |                    | ■ソーシャル・ビジネス概論<br>(SE2-3必修) | ■MBA入門                                     |                                          | ■ビジネス・プランニング |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
|                              |          | コミュニティ・ネットワーク・カー<br>(CN2-3) |                    | ■地域経済論<br>(CN2-3必修)        | ■システム思考法                                   |                                          | ■問題解決デザイン論   |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
| 基礎                           | 地域基礎科目   |                             |                    | ■ソーシャル・ビジネス概論<br>(SE2-3必修) |                                            |                                          |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
|                              |          |                             |                    | ■地域経済論<br>(CN2-3必修)        |                                            |                                          |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
|                              | 地域基礎科目   |                             | ■地域共生論             |                            | ■地域課題科目(群)                                 |                                          |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |
|                              |          | ■地域共生論                      |                    |                            |                                            |                                          |              |            |                    |    |                   |                    |    |  |  |



SDGsと滋質の「グローバルイノベーション」プレゼンの様子



「地域コミュニケーション論」三日月大造滋質県知事との対話

## 2-2-2 関連科目の履修登録状況

地域教育プログラムの地域基礎科目、近江楽士（地域学）副専攻科目の開講科目および履修登録状況は次のとおり。

○地域教育プログラムの履修登録状況

| 科目名                                | 履修登録者数    |           |
|------------------------------------|-----------|-----------|
|                                    | 令和<br>5年度 | 令和<br>6年度 |
| 地域共生論                              | 643       | 656       |
| 地域コミュニケーション論                       | 148       | 55        |
| 地域社会福祉論                            | 83        | 101       |
| 地域づくり人材論                           | 155       | 90        |
| びわこ環境行政論                           | 128       | 78        |
| 多文化共生論                             | 85        | 不開講       |
| 地域産業・企業から学ぶ社長講義                    | 52        | 102       |
| SDGs と滋賀のグローカルイノベーション～近江の暮らしとなりわい～ | 37        | 85        |
| 近江の美                               | 不開講       | 123       |
| 世界遺産のまちづくり・人づくり                    | 19        | 40        |
| 地域診断法                              | 32        | 86        |
| システム思考法                            | 8         | 19        |
| 問題解決デザイン論                          | 8         | 20        |
| ソーシャル・ビジネス概論                       | 21        | 33        |
| MBA 入門                             | 9         | 8         |
| ビジネス・プランニング                        | 3         | 3         |
| 地域デザイン A                           | 11        | 13        |
| 地域デザイン B                           | 1         | 15        |
| 地域デザイン C                           | 5         | 4         |
| 地域デザイン D                           | 4         | 4         |

## 2-2-3 地域共生論

「地域共生論」は、各学部から提供されるテーマをもとに地域共生の意義を理解し自ら率先して地域における活動等を実践することの大切さを学ぶとともに、SDGs の視点も交えて考え、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力向上を目指す1年次前期の全学生必修科目である。650名余の受講生を学部のもたがるグループに編成し、ディスカッションやポスター作成、発表などのアクティブラーニングを実施するのが本授業の特徴となっている。

令和6年度は、第1回目より第5回目までの授業を交流センターホールで実施。第6回目以降の授業からは、2教室に分かれ、担当教員は別室よりライブ配信をした。配信内容を録画することで欠席者へのオンデマンド受講にも対応できた。

この地域共生論では、3週毎に班替えをし、人も座席も替わる。3週目には、ポスター発表があり、グループワークをすることにより、自分の役割を模索し、その役割がそろうことで、チームの力が最大化する。その成果をポスターにし、発表する。互いの違いを活かして成果を出す力、その協調性が培われる。



授業風景とプレゼン発表の様子

## 2-2-4 地域基礎科目

### ○ 地域基礎科目（選択必修科目）

地域基礎科目は地域教育プログラムの基礎となる科目群で全学共通の科目であり、全学部生は前記 2-2-3 の必修科目「地域共生論」のほか、選択必修科目から1科目以上選択必修する必要がある。

| 科目                              | 講義の主な内容                                                                                                                            |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地域コミュニケーション論                    | 産官学様々な立場や現場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、地域社会で重要視されるコミュニケーションの基礎体力を養う                                                                      |
| 地域社会福祉論                         | 少子高齢化や社会保障制度の行きづまり、孤独死や自殺の増加、子どもの貧困と格差社会などの現状を見つめどんな共通認識で何が必要かを考察する。                                                               |
| 地域づくり人材論                        | 地域の活性化を促す人材について、実際に各分野で活躍している人々を教室に招き、その存在や体験に触れながら学ぶ。                                                                             |
| びわこ環境行政論                        | 滋賀県の各分野の政策立案にかかわる行政担当者の講義を通じて、地域環境政策の課題を学び、琵琶湖という環境資産をもつ地域の持続可能な発展への政策とその実施について考える。                                                |
| 多文化共生論                          | 教育や医療、行政などの各現場で多文化共生にとりくんでいる方をゲストスピーカーに招きながら、多文化共生の地域づくりにおける現状と課題について学び考える。                                                        |
| 地域産業・企業から学ぶ社長講義                 | 滋賀県の代表企業等のトップに産業界ニーズ、求める人材、学生に期待される能力などを語って頂き、滋賀県の産業・経済の特徴や抱える課題などを学ぶ。                                                             |
| SDGsと滋賀のグローバルイノベーション～近江の暮らしとわい～ | 近江のいとなみを事例に様々なゲストと議論し、SDGsの考え方に照らしローカルな実践・課題とグローバルなそれらとがどう関わり、その関りの中でどんな未来（グローバル・イノベーション）が実現できるのか導き出す。                             |
| 近江の美                            | 近江には豊かな自然とその恵みを活用した美術工芸が根付き、多くの職人が集い技を磨いてきた。こうした営みから編み出された「美」、作品を通じて湧き上がる「感性」がどう醸成されたかを振り返り、最前線の職人、企業家、編集者、デザイナーなどと教員との対談で美意識を深める。 |
| 世界遺産のまちづくり・人づくり（彦根商工会議所寄附講義）    | 全国各地の世界遺産と人と状況をゲストに報告頂きケースメソッドや彦根城の世界遺産登録に向けた産官民の取り組みに関するワークショップ、まちづくり事業の提案等に取り組む。                                                 |
| 地域診断法<br>副専攻科目（CN 必修）           | 日々求められる判断を行う際の物事の見方を修得し物事をうわべだけでなく分解・再構築してその本質的な特徴を見出す手法を「地域」をテーマとした「地域診断法」「エコロジカルプランニング」という手法を通じて身につける。                           |
| ソーシャル・ビジネス概論<br>副専攻科目（SE 必修）    | 社会的な課題や地域課題の解決手法としてのソーシャル・ビジネス(SB)やコミュニティ・ビジネス(CB)の理念を先駆者から学び代表事例を学習する。さらに SB、CB を実践するための基礎的な知識や事例研究からそのノウハウを学ぶ。                   |

地域基礎科目のうち「地域づくり人材論」では本学の卒業生や、県内を中心に様々な分野で活躍する「地域づくり人材」をゲスト講師として招き、地域とは何か、地域づくりとは何か、そして地域づくりをすすめる「人材」とは何か、といったことについて、ゲスト講師による具体的な事例や講師本人の姿や言動あるいはそれぞれの人生の軌跡を通して学ぶ。今年度の各回授業テーマは以下のとおりである。「人と地域を考える」「人口4000人のまちで仕掛ける「地域の生存戦略」」「この一人から地域は変わる」「漁師になるという選択肢」「あなたにとって働くとは?」「診療所を核に命と暮らしのケア拠点を育てる」「大地から紡ぐ」「伝統・文化の継承と創造」「地域をまたぐデュアルライフ(2拠点生活)からはじまる新しい生き方」「生きるとしごとの未来形」。また、同じく地域基礎科目の「地域コミュニケーション」では、多くの市民(地域人)を招き、学生と社会人が一堂に会する場での対話を通じて、コミュニケーションの本質について学ぶとともに、

様々なレベル様々なテーマでの対話を豊富に行うことによって「コミュニケーションの基礎体力」を養うことを目指す。「グラフィックレコーディング」等具体的な技法も学ぶ。知事も参加し、受講者との対話を行った。「世界遺産のまちづくり・人づくり」は、国宝彦根城を題材に、文化遺産の保存活用を総合的に学ぶ。市内外の当事者と共に学ぶことが世界遺産登録への機運の醸成にも寄与している。

以上の科目をはじめ、「キャンパスはびわ湖。テキストは人間」という本学のキャッチコピーを体現するような科目群によって受講生は専門に留まらない幅広い視野や、専門を生かして地域づくりの現場で活躍するための素地を身につける。また授業のなかで得た地域づくり人材や地域人との人脈を生かして、活躍の場を広げた受講生、あるいは、自身のキャリアの方向性が定まったというような受講生もあり、地域基礎科目は、地域に関する基礎的な知識の獲得に留まらない様々な学びとチャンスを提供するものとなっている。



## 2-2-5 地域志向科目

地域志向科目は、各学部学科の専門科目として提供されるもので、地域教育の一環として積極的に履修することを推奨している。

令和 6 年度は、環境科学部の「環境フィールドワークⅠ」など 8 科目、工学部の「材料科学実験Ⅱ」など 2 科目、人間文化学部の「環琵琶湖文化論実習」など 9 科目、人間看護学部の「人間看護学概論」など 4 科目が地域志向科目に位置付けられている。

## 2-2-6 近江楽士(地域学)副専攻

### 1. 人材育成イメージ、身につける力と科目構成

#### (1) コミュニティ・ネットワーク(CN)コース

CN コースでは、①地域を客観的に分析し、人や資源を結び合わせて地域再生に向けた取組をデザインする人材、②行政や NPO、市民活動等の分野でリーダーシップを発揮する人材の育成を目指し、地域を題材に具体的に地域課題を解決できるノウハウを学んでいる。

#### ○ CN コースの科目構成

| 科目        | 備考                   |
|-----------|----------------------|
| 地域診断法     | 必修                   |
| システム思考法   |                      |
| 問題解決デザイン論 |                      |
| 地域デザインA～D | 選択必修<br>(A,B の受講を推奨) |

#### (2) ソーシャル・アントレプレナー(SE)コース

SE コースでは、①ソーシャル・ビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業家的人材、②起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材の育成を目指している。

令和3年度から、起業家精神をもった人材を育成すべく科目構成を見直した。創業・起業事例をもとに地域課題解決手法を学ぶ「ソーシャル・ビジネス概論」、ビジネスゲームを通じ経営、経済の基本、企業の社会的価値を学ぶ「MBA 入

門」、事業計画の作成を学ぶ「ビジネス・プランニング」、ビジネスプランの地域社会等での実践「地域デザイン C,D」で新たに構成している。

#### ○ SE コースの科目構成

| 科目           | 備考                   |
|--------------|----------------------|
| ソーシャル・ビジネス概論 | 必修                   |
| MBA入門        |                      |
| ビジネス・プランニング  |                      |
| 地域デザインA～D    | 選択必修<br>(C,D の受講を推奨) |

### 2. 近江楽士の称号授与者

近江楽士(地域学)副専攻の各コースの所定の単位を修得し、所属する学科の修了要件を満たすとその修了が認められ、近江楽士の称号が授与される。

近江楽士コミュニティ・ネットワーク(CN)称号授与者は平成 26 年度から、ソーシャル・アントレプレナー(SE)称号授与者は平成 30 年度から輩出している。

SE コース称号授与者の就職先は、大学院進学者を除いて、その多くが滋賀県内となっており、地元定着につながっている。

#### ○ 近江楽士称号授与者数の推移

| 称号  | H<br>29 | H<br>30 | R<br>1 | R<br>2 | R<br>3 | R<br>4 | R<br>5 | R<br>6 |
|-----|---------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| CN  | 3       | 23      | 16     | 6      | 21     | 17     | 15     | 6      |
| SE  | —       | 3       | 5      | 1      | 4      | 4      | 5      | 2      |
| 合計  | 3       | 26      | 21     | 7      | 25     | 21     | 20     | 8      |
| 実人数 | 3       | 23      | 17     | 7      | 21     | 20     | 18     | 8      |

### 特徴的な講義内容等

#### (1) 「ソーシャル・ビジネス概論」

ソーシャル・アントレプレナーコースの基礎的な科目である「ソーシャル・ビジネス概論」では社会的な課題や地域課題の解決手法としてのソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネスについて先駆者からその理念や代表事例を学び、またそれらを実践するための基礎的な知識や県内の事例研究からノウハウを習得。

具体的には①先駆者からの理念等の学びに関してはムハマド・ユヌス「貧困のない世界を創る」、洲上清二「近江商人ものしり帖」、渋沢栄一「論語と算盤」、細田信孝「コミュニティ・ビジネス」を活用し、②代表事例として、「葉っぱビジ



ネス」、「マザーハウス」、「ボーダーレスジャパン」の取組をグループでの議論も交えて学んだ。

また、実践編では、課題抽出手法やビジネスプランの作成、ソーシャル・インパクトやクラウドファンディングによる資金調達手法等を学ぶとともに、事例研究では里山再生による琵琶湖の環境保全の取り組みや、農複連携による課題解決の実際を伺い、グループワークを通し実践的理解を深めた。

## (2) 実践現場での学び

近江楽士（地域学）副専攻の座学では、両コースとも地域課題に関するグループワークを中心に行い、地域デザインA～Dの講義では現場に足を運んで地域の方々の協力を得ながら実践的に学んだ。

### ○ 令和 6 年度の主な実践現場等

| 科目名     | 学びのフィールド等                                                    |
|---------|--------------------------------------------------------------|
| 地域デザインA | ・多賀町大滝<br>・彦根市銀座商店街<br>・長浜市尾上地域                              |
| 地域デザインB | 日野町職員とのワークショップを通じて、日野のまちで働くことの意義や課題を学ぶ                       |
| 地域デザインC | 彦根市石寺町における居場所づくり<br>コミュニティカフェの企画、運営                          |
| 地域デザインD | 新たに事業を起こす場合に必要となるビジネス・プランニング（事業計画）について、企業の経営者のアドバイスも受けながら学ぶ。 |



地域デザインA 長浜市尾上地域でのフィールドワークの様子

## 2-2-7 近江環地域再生学座

近江環地域再生学座は、湖国近江をフィールドに地域診断からまちづくり活動の実践まで、地域における多様な活動や挑戦のための知識・手法の教授を通じて、地域資源を活用した地域課題の解決や地域イノベーションを興し地域社会を切り拓くイノベーターやコーディネーターの育成を目指すプログラムである。

プログラムを修了し、検定試験に合格することで受講者には称号「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」が授与される。自治体職員、民間企業、NPO や自治会に所属する方、建築や都市計画の専門家など様々な所属・専門の人材が受講し、令和 6 年度末までに 178 名（うち大学院コース 84 名、社会人コース 94 名）が称号を獲得した。

令和 6 年度の称号授与者は社会人コース 5 名である。授業は対面、オンライン、オンデマンド方式を併用して行った。

受講生アンケート結果では大変満足、満足とし、感想として次のような声があった。

### 【良かった点】

○課題理解や地域ビジネスについて、講義と実践演習、フィールドワークで総合的に理解・体験できた。

○実践現場体感特別講義では、現地へ視察に行き、西栗倉村の副村長から直接話を聞けたり、現場で活躍されている地域の方から、事例を含む興味深い話を聞けたりできたため、充実した経験ができた。

○地域課題を総合的に理解するうえで大切な地域診断法や、まちづくりに役立つ基礎的な考え方を学ぶことができた。

○カリキュラムが広範囲に設定されており、次回も楽しみになるような講義内容であったため、年間を通じて緊張感も持ちながら学べるのが特によかった。

○仕事の都合上、時間に都合がつかない場合も、オンライン・オンデマンドの配信があるためよかった。



「実践現場体感特別講義Ⅰ」奈良県清澄の里 栗

## 2-2-8 近江楽座

近江楽座の取組は平成16年度に始まり令和6年度までの20年間で生まれたプロジェクトは延べ470件である。扱うテーマはまちづくりを始め、健康医療福祉、環境保全、

農業振興、伝統文化の継承、被災地支援と広範で、活動地域も県内のみならず、県外や海外にまで及んでいる。本年度は、下記の21チームが近江楽座に採択された。

### ○ 令和6年度の採択プロジェクト一覧

| プロジェクト名               | 活動エリア           | 関連団体                          |
|-----------------------|-----------------|-------------------------------|
| 政所茶レン茶“ー              | 東近江市政所町         | 政所茶縁の会、政所茶生産振興会               |
| あかりんちゅ                | 彦根市、県内他         | 滋賀教区浄土宗青年会                    |
| 障がい児・者、自立支援共生社会プロジェクト | 学内              | NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会 メロディー    |
| 未来看護塾                 | 学内、彦根市内、宮城県南三陸町 | 彦根市立病院、友人山崎病院、NPO ぽぽハウス 他     |
| とよさと快蔵プロジェクト          | 豊郷町             | NPO 法人とよさとまちづくり委員会            |
| 地域博物館プロジェクト           | 近江八幡市、高島市、学内    | 白谷荘歴史民俗博物館                    |
| かみおかべ古民家活用計画          | 彦根市上岡部町         | 上岡部町自治会、滋賀県愛瓢会、ベストハウスネクスト株式会社 |
| フラワーエネルギー「なの・わり」      | 学内、彦根市          | 菜の花プロジェクトネットワーク               |
| 男鬼プロジェクト              | 彦根市男鬼集落         | 一般社団法人おおりびと                   |
| BAMBOO HOUSE PROJECT  | 湖南市菩提寺          | 菩提寺まちづくり協議会                   |
| 廃棄物バスターズ              | 彦根市、県内          | (株)ユニオンペック、(株)近江物産、滋賀ローカル研究会  |
| はっしん歴史遺産@近江           | 学内、長浜市余呉町菅並地区   | 湖北古民家再生ネットワーク                 |
| CEBU PARIAN PROJECT   | フィリピンセブ市内、県内    | NPO 法人 FootRoots              |
| 三津屋研究所                | 三津屋町、学内         | 三津屋自治会                        |
| MINOKAWA CRAFT        | 東近江市箕川町         | 箕川未来協議会、株式会社 KUMINO           |
| おとくらプロジェクト            | 彦根市高宮町          | 高宮連合自治会                       |
| 座・沖島                  | 近江八幡市沖島町、学内     | 沖島町離島振興推進協会                   |
| 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト | 近江八幡市沖島町        | 沖島ファンクラブ「もんて」                 |
| 日夏里かがやけプロジェクト         | 彦根市日夏町          | 日夏里館運営団体                      |
| 内湖の再生と地域の水辺コーディネート    | 学内、彦根市内の河川や池沼   | 彦根市生活環境課                      |
| 犬上川竹林整備プロジェクト         | 彦根市             | 犬上川開出今地区竹林愛護会                 |

## ◎ 令和6年度実施事業について

2024 年度は近江楽座 20 周年の節目の年でした。コロナ禍を経て日常が戻り、地域のイベントに再び参加することができるようになり、学生たちの活躍の場も増えていきました。

地域の方々と協力して活動を進める中で、それぞれの地域課題に向き合い、それぞれの地域の未来の風景を一緒に形作ろうと、学生たちが奮闘しました。

## ○ 令和 6 年度の事業実施日程

| 日程                | 行事                                                                  |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 3 月 15 日          | 20 <sup>th</sup> 近江楽座スキルアップサポート会議(第 1 回)                            |
| 4 月 15、16、17 日    | プロジェクト合同説明会、よろず相談会                                                  |
| 4 月 20 日          | 2023 年度活動成果報告会開催                                                    |
| 4 月 15 日～5 月 10 日 | プロジェクト募集                                                            |
| 4 月 26 日          | 第 1 回近江楽座専門委員会                                                      |
| 5 月 8 日           | 20 <sup>th</sup> 近江楽座スキルアップサポート会議開催(第 2 回)                          |
| 5 月 25 日          | 令和 6 年度プレゼンテーション・審査会                                                |
| 5 月 30 日、6 月 3 日  | 審査結果発表<21 プロジェクト採択>、活動説明会・プロジェクト活動開始                                |
| 7 月 2 日           | 20 <sup>th</sup> 近江楽座スキルアップサポート会議開催(第 3 回)                          |
| 7 月 3 日           | スキルアップ講座「危機対応講習」開催                                                  |
| 7 月 10 日          | 第 1 回ぞろぞろ会開催                                                        |
| 8 月 23 日          | 滋賀県建設コンサルタント協会 NPO 活動支援事業 2 団体助成決定<br>「近江楽座推進サポート会議」、「かみおかべ古民家活用計画」 |
| 9 月 4 日           | 20 <sup>th</sup> 近江楽座スキルアップサポート会議開催(第 4 回)                          |
| 9 月 11 日          | 20 <sup>th</sup> 近江楽座スキルアップサポート会議開催(第 5 回)                          |
| 9 月 21 日          | 20 <sup>th</sup> 近江楽座地域ワークショップ開催<第 1 回 ボランティア部 Harmony>             |
| 10 月 7 日          | 20 <sup>th</sup> 近江楽座地域ワークショップ開催<第 2 回 とよさと快慶プロジェクト>                |
| 10 月 20 日         | 20 <sup>th</sup> 近江楽座地域ワークショップ開催<第 3 回 政所茶レン茶>                      |
| 10 月 15 日～23 日    | 助成金中間ヒアリング                                                          |
| 10 月 18 日         | 第 1 回代表者会議                                                          |
| 10 月 31 日         | 第 2 回近江楽座専門委員会                                                      |
| 11 月 10 日         | 20 <sup>th</sup> 近江楽座地域ワークショップ開催<第 4 回 おとくらプロジェクト>                  |
| 11 月 30 日         | 近江楽座 20 周年記念活動報告会「地域活動フォーラム」開催                                      |
| 12 月 8 日          | 開出今田地でのイベント開催(キャンドル製作体験&お茶の淹れ方講座&健康づくり教室)                           |
| 1 月 24 日          | 第 2 回代表者会議                                                          |
| 2 月 28 日～3 月 7 日  | 助成金最終ヒアリング                                                          |
| 3 月 14 日          | 活動実績報告提出                                                            |
| 3 月 28 日          | 『地域と関わる学生たちのバトンリレー 近江楽座の実践から地域と大学の未来へ』出版                            |





## 2-3 SDGs地域化拠点の取組



### 滋賀県立大学SDGs宣言

S 滋賀県立大学は「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに

D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し

G グローカルな思考と実践をもって

s 世界と地域の発展に貢献します

### 2-3-1 SDGsに関する取組の全体像

本学では、平成30年6月に「滋賀県立大学SDGs宣言」を行った。大学のSDGsへの取組みとしては2つの方向性から考えることができる。一つは、世界共通の持続可能な開発目標であるSDGsをこの滋賀の地に適合させ、根付かせること。そしてもう一つが、既に近江商人の三方よしの精神に

基づき、長年に亘り、実践され、蓄積されてきた暮らしとなりわいにおける様々な地域の叡智を世界に発信し、SDGsに統合しようとするのである。この双方向的な“SDGsの地域化”こそが、大学が果たすべき役割であると考え、取組みを進めている。





## 2-3-2 キャンパス SDGs プロジェクト2024



今年度のキャンパス SDGs の取組みは、年間を通じて様々な企画を学生とともに行う形式で行った。以下にその概要を示す。

### ◎映画「医学生 ガザへ行く」上映会+パレスチナのポスター解説

- 開催日:2024 年 11 月 21 日(木曜日)
- 会場:滋賀県立大学 A2 棟 202 教室
- 参加者:約 80 名(映画鑑賞者は 61 名)
- ゲスト:長沢 美抄子 氏  
(中東・パレスチナ絵画展プロジェクト代表)

#### ○ 企画運営グループ

- ・大野 光明(人間関係学科 教授)
- ・河 かおる(国際コミュニケーション学科 准教授)
- ・坂本 輝世(全学共通教育推進機構 准教授)
- ・櫻井 悟史(地域文化学科 准教授)
- ・横田 尚美(生活デザイン学科 教授)

#### 《感想》

・普段ニュースで音声として耳にしていたり、文字で見えたり、倒壊した建物を見るだけではわからない「リアル」を知る機会となった。

・人々が非常事態に慣れているのが印象的だった。  
・きれいなポスターの中になしみやいかり等の感情を感じた。



### ◎映画「バベルの学校」上映会

- 開催日:2024 年 12 月 18 日(水曜日)
- 会場:滋賀県立大学 A7 棟 101 教室
- 参加者:36 名
- ミニレクチャー講師:・吉田 悦子  
(国際コミュニケーション学科 教授)

#### ○ 企画運営グループ

- ・門川 紗也(人間関係学科 3 年生)
- ・河 かおる(国際コミュニケーション学科 准教授)
- ・坂本 輝世(全学共通教育推進機構 准教授)
- ・本宮 裕示郎(人間関係学科 准教授)
- ・吉田 悦子(国際コミュニケーション学科 教授)

#### 《感想》

・背景が複雑な子が多いのに、映画祭で賞をとったり、最後のクラスで泣けたりする所に私も涙が出た。  
・子どもたちの家庭環境や信仰する宗教などの境遇によって生じるさまざまな困難について学ぶことができた。



映画上映後の感想共有の様子

◎山本ひかるさんトークイベント

「まちの魅力をさがす、つたえる。」

○ 開催日:2024 年 12 月 23 日(月曜日)

○ 会場:滋賀県立大学 A7 棟 101 教室

○ 参加者:約 30 名

○ ゲスト講師:山本ひかるさん

1992 年大阪生まれ。滋賀県立大学人間文化学部生活デザイン学科卒業。建築・パン屋・銭湯の現場勤務を経て、現在イラストレーターとして活動中。

全国各地のまちに暮らしながら、そのまちの魅力を引き出し、イラスト入りの手描きマップの制作を行っている本学卒業生の山本ひかるさんをゲスト講師に迎えてトークイベントを開催した。山本さんの仕事(作品)の紹介、まちの魅力を引き出す視点はどのように育まれたのか、手描きマップはどのように制作されているのかなどのお話いただいた。山本さんの学生時代からの作品制作に対する思いと行動、そしてその積み重ねにより築いてこられたキャリアについてのお話は現役の学生だけでなく、社会人として働く人たちにとっても大きな刺激となったようであった。それぞれの人がワクワクする気持ちを大切に、やりがいや働きがいをもって暮らすまちはきっと魅力にあふれたまちになるのではないかと感じた。



講演後に山本ひかるさんの作品を見ながら交流

◎アップサイクルトーク

「新たな価値を生み出す仕事」

○ 開催日:2025 年 1 月 8 日(水曜日)

○ 会場:トガノツバメ

○ 参加者:16 名

○ ゲスト講師:周防 苑子さん(HACOMIDORI 主宰)

1988 年 滋賀の生花店に生まれ、幼い頃から植物に囲まれた日々を送る。

学生時代を京都、会社員時代を東京で過ごし、2014 年夏帰郷。同年 11 月、ソロプロジェクトとして『ハコミドリ』設立。家屋解体時の廃ガラスと、生花市や山々で採取した草花を掛けあわせたプロダクトを制作中。2016 年春、滋賀県彦根湖畔にてアトリエ『VOID A PART』を構え、新たな展開も進めている。

○ ゲスト講師:ワタナベ ユカリさん

(株式会社仕立屋と職人 代表取締役)

1987 年生まれ、埼玉県出身。2011 年に武蔵野美術大学 芸術文化学部卒業後、古着のリメイクを中心とした犬の洋服屋「whirlpool」にて企画、制作、販売を行う。2016 年に文化服装学院服飾研究科と writtenafterwards デザイナー山縣良和氏主宰「ここのがっこう」へダブルスクールで通い、表現することやものをつくることの根本と技術を学ぶ。在学中、「仕立屋と職人」を結成。2020 年より株式会社仕立屋と職人の代表取締役を務める。



アップサイクルトークの様子

アップサイクルは、一つの役割を終えたモノに新たな命を吹き込み、さらなる価値を生み出す取り組みである。言葉としては少しずつ認知されてきているが、実際にどんな活動があるのか、またそれが経済的に継続性を持って成立するのかなど具体的なことを知る機会は少ない。このイベントでは、彦根市と長浜市でアップサイクルの活動をビジネスとして実践されているお二人のゲストにお話を伺った。

解体家屋などから出るガラスと売れ残りの花から、暮らし



を彩る置物を制作する周防さんとタンスの中で眠っている思い出が詰まった着物をシャツにリメイクしているワタナベさん。それぞれ商品化に至るまでの過程は違うものの、二人とも自分にしかできないこと、自分がやるべきこととして仕事に向き合っておられる姿が印象的であった。また役割が終わったモノを素材として再活用するのも「それが当然のこと」と考えておられるのも共通する点で、「SDGs 達成のため」や「環境に負荷をかけないように」といった外から求めに応じてこのような活動に取り組むのではなく、それぞれの経験からそうすることが当たり前として捉え、また自分の中から衝動として湧き出る思いによって行動を起こすことが重要だと感じた。

#### ◎構想デザイン演習Ⅱ

生活デザイン学科の2年生が後期に履修する「構想デザイン演習Ⅱ」の授業の一部をキャンパス SDGs プロジェクトの活動と連携させて、それぞれのSDGsに関連するテーマでイベントやムーブメントの構想と実践にチャレンジした。学生が4-5名のグループに分かれ、それぞれの視点で意見を出し、協力しながら以下の5つのプロジェクトに取り組んだ。



階段の壁面を雑誌に見立てた Step Zine

#### ◇ Step zine

大学における運動不足を解決するために、楽しみながら運動ができる仕組みを考えた。

#### ◇ 教科書バトン

学校で使わなくなった教材のリユースサービスを提案。

#### ◇ チャリで行く。ひこね路地裏クイズラリー

自転車利用の促進と地域の魅力の再発見を目的として自転車クイズラリーを提案。

#### ◇ よりみちマップ

デジタルデトックスや地域の魅力の発信を目的とし、地図を用いた彦根の新しいまち歩きを提案。

#### ◇ GREEN MUSEUM

大学の人間文化学部棟の中庭を有効活用し、学生にとって居心地のよい空間を提案。

## 2-3-3 教育、研究、地域への波及

### ◎SDGs 連続講座

びわ湖東北部(彦根・長浜・米原)の各地域で持続可能な社会の実現に向けた取り組みが行われている現場を訪ねるツアーイベントを開催した。それぞれのエリアで活動されている方を案内人として、取り組みの状況やその成果、今後の課題などについて伺った。また後半は参加者で焚き火を囲み、自己紹介やツアーの感想などを話しながら交流する時間を設けた。

#### 【第1回】

○11月9日(土曜日) @伊吹山

○案内人: 高橋滝治郎さん

(ユウスゲと貴重植物を守り育てる会 代表)

○参加者: 11名

伊吹山ドライブウェイで山頂駐車場までバス移動し、山頂まで琵琶湖を一望する眺望を楽しみながら歩いた。途中の展望台からは夏に大規模な土砂災害が発生した山腹の様子を見ることができ、気候変動や獣害による伊吹山の生態系への影響を実感した。人間の生活と自然環境の保全のバランスを取ることが、持続可能な社会の実現には不可欠だと感じた。



伊吹山山頂での記念撮影

#### 【第2回】

○11月23日(土曜日)

○ウッディパル余呉

○案内人

・前川和彦さん(株式会社ロハス長浜代表取締役)

・小山武士さん(ウッディパル余呉 支配人)

○参加者: 3名

地域資源を活用した観光・レジャー産業の取り組みについて、施設を案内いただきながら説明を伺った。自然の恵みを消費するだけでなく、持続可能性を意識して循環する仕組

みを検討し、実践されている様子を知ることができた。高校や大学との連携などにより学びや社会実装の場としての可能性についても意見交換した。



たき火を囲んでの交流

### 【第3回】

○12月7日(土曜日)

○彦根麦酒 荒神山醸造所

○案内人

・小島なぎささん(株式会社彦根麦酒取締役・醸造責任者)

○参加者:5名

クラフトビールの醸造所を訪ね、醸造設備の見学とビール造りの工程などの説明を受けた。できるだけ排水を少なくするための工夫や外気を上手に取り込んだ空調システムなどで環境負荷にも配慮した生産活動について知ることができた。このような仕組みや新たな試みが大学との連携により進められていることも参加者の方に理解いただく機会となった。



ビールの製造工程の説明を聞く

### ◎SDGs 出前講座

|   | 時期                 | 出講先・講演内容                                                   |
|---|--------------------|------------------------------------------------------------|
| I | 2024.4.25、<br>4.26 | 桜花学園高等学校<br>SDGs のつながりを考える<br>～再生可能エネルギーを始点<br>に SDGs をみる～ |

県内外の行政や教育機関、企業等からの要望を受けて講演等を実施した。

### SDGs 出前講座等の出講先



SDGs 出前講座受講の様子

## 2-4 学生への食糧支援の取組

### 2-4-1 概要

物価高が続く中、滋賀県立大学での勉強や研究、課題活動などの学生生活が少しでも充実したものとなるよう、引き続き地域の皆様の協力を頂きながら、次のとおり食糧支援を実施した。

また、規格外野菜や消費期限間近の食品の学生への配布は、SDGs 達成に向けそのターゲットの一つである食品ロス削減につながり学生にもその趣旨を伝えた。





## 2-4-2 支援の経過

### 【第1回目】

○ 日 時：令和6年7月4日（木）

○ 配布食糧：

- ・お米160kg／1人1.2kg
- ・ジャガイモ30kg、
- ・玉ねぎ40kg、
- ・きゅうり10kg
- ・モロッコ豆2kg、
- ・ズッキーニ15kg、
- ・サニーレタス40束

○ 配布学生：250人

○ 提供団体：近江日野交流ネットワーク

○ 特記事項：日野町の農家の皆さんが県大生のために栽培していただいた野菜を直接学生に対して、激励とともに手渡していただいた。



近江日野交流ネットワークのみなさん

### 【第2回目】

○ 日時：令和6年12月3日（火）

○ 配布食料：

- ・お米200袋／1人1.2kg)
- ・大根120本、
- ・白菜30個
- ・サツマイモ20kg
- ・里芋10kg
- ・冬瓜10kg、
- ・玉ねぎ10kg
- ・餅10kg、
- ・みかん4kg、その他多数

○ 配布学生：200人

○ 提供団体：近江日野交流ネットワーク

○ 特記事項：日野町の農家の皆さんが県大生のためにと栽培していただいた野菜を直接学生に対して、激励とともに手渡していただいた。



農家さんによる野菜配布の様子

### 【第3回目】

○ 日時：令和7年1月23日（水）

○ 配布食糧：

- ・お米200人分
- ・人参300本
- ・白米、食品、野菜150人分

○ 配布学生：200人

○ 提供団体

- ・JA東びわこの多賀にんじんクラブ
- ・多賀町蔬菜園芸組合
- ・女性部の皆さん

○ 特記事項：上記団体の皆さんが県大生のためにと、収穫された地域特産の多賀にんじんをはじめとした野菜やお米、食糧品などを直接学生に声を掛け手渡していただいた。



交流センター正面玄関での配布の様子

### ◇ 日野町での野菜収穫体験と農家の皆さんとの交流

一般社団法人近江日野交流ネットワークの皆様が、学生たちを応援しようと日野町でのジャガイモや冬野菜などの農作物の収穫体験と農家さんとの交流事業を令和6年6月29日および11月30日に実施いただき、学生および教職員が参加した。

#### ◇ 今後の取組予定

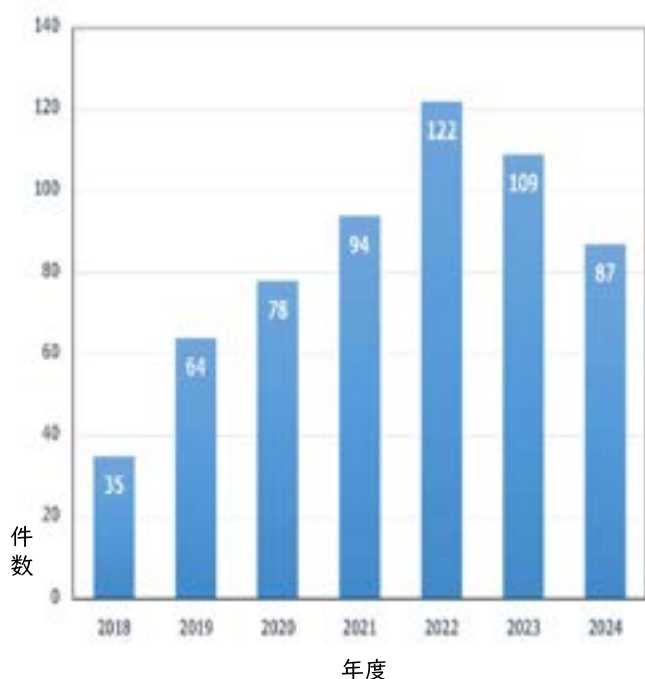
今後も地域のご支援をいただきながら学生を支援し、本学としても地域に貢献する大学として地域と密接に連携し課題解決に取り組む。あわせて、SDGs のターゲットの一つである食品ロス削減にもつながる規格外野菜等の学生への提供も農家さんの協力を得ながら継続する。

## 2-5 地域連携

### 2-5-1 滋賀県立大学地域連相談窓口の相談対応

地域と本学をつなぎ SDGs の達成に向けた取組をはじめとする本学のシーズを生かした地域貢献を推進するため、地域共生センターに地域連携相談窓口の設置を設置し、地域連携コーディネーターを配置している。これまでの相談対応件数は次のとおり。

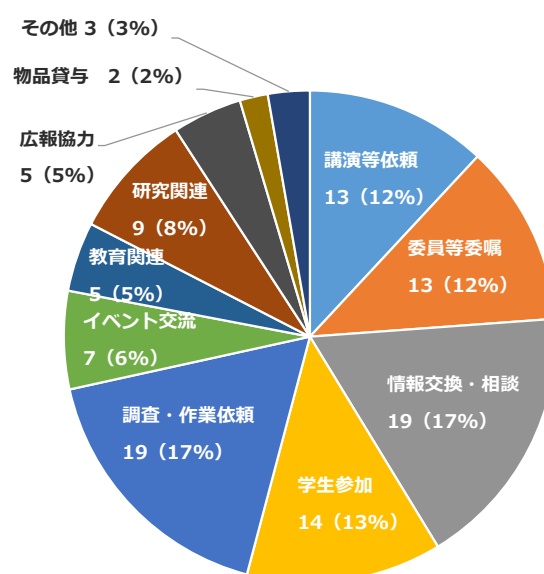
#### ○ 地域連携相談窓口の相談受付件数



#### ○ 令和 6 年度の相談者分野別件数



#### ○ 令和 6 年度相談依頼内容



#### 【 地域連携窓口の連絡先 】

滋賀県立大学地域共生センター  
 TEL:0749-28-9851 / FAX:0749-28-0220  
 e-mail:chiiki\_koken@office.usp.ac.jp

## ○ 連携の事例

### (1) 小学生の大学見学の受入れ対応

12月21日(土)と25日(水)に愛荘町の小学5-6年生の大学見学の受入れを行った。大学でどのような教育や研究が行われているのかを知りたいという要望に基づき、小学生と小学校教諭を対象として色弱視覚障害についての調査を行っていた生活デザイン学科の学生の卒業研究とのマッチングを行い、「色の見え方の違いを体験するワークショップ」を実施した。

最初に学生から、人によって色の見え方が違い、その程度によっては日常生活への影響があることが説明され、色の判別が難しい人への配慮の事例などを紹介した。その後、色セロファンを貼った簡易の眼鏡を通して見たときに、様々な色のフェルト球を色の違いが分かるような配置しながらクリスマスリースをつくるワークショップを行い、小学生に色弱視覚障害についての理解を促すことができた。

後半は数グループに分かれて大学生による案内で大学構内を見学するツアーが行われ、広いキャンパスを歩いた。図書館や講義棟、実験圃場などを巡りながら、小学校とは違う施設に驚きの声が上がっていた。



色の見え方ワークショップの様子

### (2) 中学生の地域学習の受入れ

彦根市立中央中学校の生徒が地域に出かけて学ぶ校外学習のプログラムに協力した。琵琶湖のゴミについて調べているとのことで、実際に湖岸まで行って状況を確認した。海であれば、海岸に上がってくるゴミは海外で捨てられたものが海流に乗ってくることがありますが、琵琶湖にあるゴミはほぼ100%滋賀県内で捨てられたものだと言明すると、自分たちが琵琶湖を汚すことがないように気をつけようと口々に話し合っていた。



彦根市立中央中学校の校外学習

## 2-5-2 県内自治体、企業、団体等との連携

本学は県内市町等と連携協力して地域課題解決に資する取組を行い地域社会に貢献するため、平成22年度より連携協力に関する協定の締結を進めている。令和6年度は新たに2団体と連携協定を締結した。また、これまでに連携協定を締結した市町には、新たな連携取組を生み出すことを目的に連携希望案件の調査を実施した。

### (1) 滋賀中央信用金庫および彦根商工会議所滋賀県信用保証協会との連携協定

令和6年6月27日には滋賀中央信用金庫および彦根商工会議所滋賀県信用保証協会と理系人材の育成に関する協定を締結し、①次世代を担う子どもの理工系分野に対する興味・関心を高めるとともに、進路選択に重要な影響を与える保護者や教員等に対して理解を促進する取組に関すること②協力企業との連携に関すること③理系人材育成にかかる広報に関すること④その他、目的の達成に必要な事項に関することに連携して取り組むこととした。今後、地域活性化に貢献し発展的な未来を創造することができる理系人材の育成の推進などで連携を進める。



滋賀中央信用金庫・彦根商工会議所・滋賀県立大学との連携協定締結式



## (2) 滋賀県文化財保護協会との連携協定

令和7年3月5日には滋賀県文化財保護協会と包括連携協定を締結し、①文化財の調査研究および保存と活用に関する事業②前記①を基盤とした人材の育成に関する事業③その他、甲および乙が協議し必要と認める事業に連携して取り組むこととした。今後、連携・協力のもと、文化財の調査・研究をおこなうとともに、その保存・活用を能動的に担う次世代の人材育成についても、相互に協力し連携を進める。



滋賀県立大学と滋賀県文化財保護協会の協定締結式

○これまでに県内自治体等と締結した連携協定の状況

| 番号 | 年月日       | 協定締結相手方                |
|----|-----------|------------------------|
| 1  | H23.3.24  | 彦根市                    |
| 2  | H23.4.15  | 近江八幡市、近江八幡商工会議所、安土町商工会 |
| 3  | H23.6.23  | 長浜市                    |
| 4  | H24.9.7   | 東近江市                   |
| 5  | H24.12.27 | 米原市                    |
| 6  | H25.7.3   | 守山市                    |
| 7  | H26.6.26  | 愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町        |
| 8  | H28.3.30  | 草津市                    |
| 9  | H31.1.16  | 大津市                    |
| 10 | R1.9.5    | 竜王町                    |
| 11 | R2.10.2   | 高島市                    |
| 12 | R4.3.14   | 野洲市                    |
| 13 | R4.3.23   | 日野町                    |
| 14 | R4.4.13   | JA 東びわこ                |
| 15 | R6.2.27   | 滋賀県信用保証協会              |
| 16 | R6.6.27   | 滋賀中央信用金庫、彦根商工会議所       |
| 17 | R6.3.5    | 滋賀県文化財保護協会             |

## 2-6 生涯学習

「公開講座」、「公開講義」はともに、開学翌年の平成8年度から実施している長い歴史を持つ事業である。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年度は「公開講座」、「公開講義」の取組みはすべて中止となった。令和3年度は、オンデマンド方式での「公開講座」のみ実施することができた。令和4年度は、前期にオンデマンド方式での「公開講義」を初めて実施し、後期からは対面方式での「公開講義」もようやく再開することとなった。

令和5年度・令和6年度は、「公開講座」、「公開講義」のどちらも、対面方式およびオンデマンド方式で実施している。

### 2-6-1 公開講座

公開講座は、地域住民の知的欲求に応え、知識や教養を身につける学習機会の提供ならびに本学の有する知的財産を地域住民に還元し、開かれた大学として本学の地域社会に対する役割を果たすことを目的として開催している。

#### (1) 公開講座

令和6年度は令和5年度に引き続き、各学部から推薦された4名の教員の講義を対面方式およびオンデマンド方式で公開した。

#### ■ 環境科学部

季節を通して自然をみつめる

－ 多年生植物の生活史戦略 －

環境科学部 講師：荒木 希和子

#### ■ 工学部

システムと半導体集積回路設計技術

～システムとそれを構成する半導体集積（電子）回路の構成関係より“仕掛け”としてのシステムを見直す～

工学部 教授：岸根 桂路

#### ■ 人間文化学部

食べる時間で変わる：

体内時計を知って健康寿命を伸ばす

人間文化学部 教授：辰巳 佐和子

#### ■ 人間看護学部

人とかわかるということについて

人間看護学部 教授：牧野 耕次

## (2) びわ湖東北部地域連携協議会市民教養講座

同協議会を構成する5大学・短期大学が共同で、地域の方々の学びのきっかけづくりや知的好奇心を満たすことを目的に市民教養講座を実施している。令和6年度は本学から次のとおり参画した。

### ■ 地震災害を防ぐためにできること

理事・副学長：小泉 尚嗣

### ■ 治安と観光－「安全・安心」の現状と課題

人間文化学部 准教授：櫻井 悟史

## 2-6-2 公開講義

公開講義は、本学の講義を地域住民に公開することにより、地域の方々へ学習の機会を提供することを目的としている。

令和2年度・3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため公開講義を全面的に中止していたが、令和4年度から徐々に再開している。令和6年度はオンデマンド方式・対面方式で下記のとおり実施した。

【前期公開講義(対面方式)】・・・32科目

【前期公開講義(オンデマンド方式)】

#### ○ 環境疫学

環境科学部 講師：肥田 嘉文

#### ○ 心理学基礎

人間文化学部 講師：谷口 友梨

【後期公開講義(対面方式)】・・・47科目

【後期公開講義(オンデマンド方式)】

#### ○ 電子社会と人間

工学部 教授：柳澤 淳一

## 2-7 他大学等との連携

### 2-7-1 感びわ湖大学・地域コンソーシアム

県内14大学と県、市町、関係団体で構成される感びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける以下の大学地域連携事業に他大学等と連携して取り組んだ。

## 《 令和6年度の本学に関わる主な事業 》

### ① 大学地域連携課題解決支援事業

令和6年度の実施事業19件に助成

### ② 学生支援事業

「SDGsワークショップ～MLGsⅡ.びわ湖を楽しむ愛する人を増やそう～」をコンセプトに、びわ湖を活かしたアクティビティを体験した後、MLGsⅡの「びわ湖を楽しむ愛する人を増やそう」を実現するための滋賀の新しいアクティビティを考え、アイデア発表を行った。

### ③ 単位互換事業

13大学から対面授業や遠隔授業により実施する65科目の提供を受け開講した。26名(重複あり)が出願し、単位付与者は5名であった。

### ④ 理系人材育成事業

理系人材のすそ野拡大に向け、ものごとを科学的な見方や考え方で捉え、自らのアイデアを育て、実現していく力を持った子どもたちを育成し、子どもたちが将来の進路・キャリア選択を通じて、理系人材として成長していくことの支援を目的に2024年度から新たに理系人材育成事業を開始した。理系人材育成体験プログラムに6大学29件を採択し、その参加者はのべ4,020人であった。

## 2-7-2 びわ湖東北部地域連携協議会

びわ湖東北部地域の5大学、県、3市、2商工会議所、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの連携によって、SDGsを活用した豊かに働き生活できるびわ湖東北部地域の創出に向けて、次の事業に取り組んだ。

### ○ 令和6年度の本学の関わった主な事業

・地域コミュニティの活性化のため、前記2-6-1 公開講座の項に記載のとおり、生涯学習事業として「市民教養講座」を共催実施した。

・SDGs関連として、「キャンパスSDGsプロジェクト2024」、「SDGsをテーマとした共同講義」、「FD・SD研修会」を共催実施した。

### 3 スタッフ紹介

#### 3-1 地域共生センターの体制【2024 年】

|                            |                                                 |
|----------------------------|-------------------------------------------------|
| センター長（地域連携・高専開設準備担当理事）中嶋 毅 |                                                 |
| 教授 鶴飼 修                    | 地域教育プログラム総括、地域共生論、近江楽士（地域学）副専攻、近江環人地域再生学座、近江楽座等 |
| 特任講師 上田 洋平                 | 地域教育プログラム、地域共生論、近江楽士（地域学）副専攻、近江環人地域再生学座、近江楽座等   |
| 特任准教授 西岡 孝幸                | 近江（地域学）副専攻、地元就職・起業支援等                           |
| 地域連携・研究支援課課長 小椋 茂          | 事務総括                                            |
| 係長 川原 宗                    | 地域連携総括、他大学との連携等                                 |
| 副主幹（主任調査研究員） 秦 憲志          | 調査研究、近江楽座、地域教育プログラムの支援等                         |
| 主査 高谷 美穂                   | 生涯学習、近江楽座等                                      |
| 特任職員 谷口 嘉之                 | SDGs、地域連携等                                      |
| 職員 小川 利佳                   | 地域課題科目、近江楽士（地域学）副専攻等                            |
| 職員 柴田 豊美                   | 地域基礎科目                                          |
| 職員 井上 菜津水                  | 近江環人地域再生学座事務等                                   |
| 特任職員 杉本 一良                 | 生涯学習事務                                          |
| 職員 杉田 弘一                   | 近江楽座事務                                          |
| 職員 中山 ゆず香                  | 交流センター管理担当                                      |

| 地域共生論運営委員     |      |        |
|---------------|------|--------|
| 環境科学部         |      |        |
| 環境生態学科        | 講師   | 工藤 慎治  |
| 環境政策・計画学科     | 講師   | 吉川 直樹  |
| 環境建築デザイン学科    | 講師   | 鄭 新源   |
| 生物資源管理学科      | 准教授  | 清水 顕史  |
| 工学部           |      |        |
| 材料化学科         | 准教授  | 加藤 真一郎 |
| 機械システム工学科     | 准教授  | 橋本 宣慶  |
| 電子システム工学科     | 准教授  | 服部 峻   |
| 人間文化学部        |      |        |
| 地域文化学科        | 准教授  | 櫻井 悟史  |
| 生活デザイン学科      | 講師   | 大江 由起  |
| 生活栄養学科        | 講師   | 田中 大也  |
| 人間関係学科        | 講師   | 中村 好孝  |
| 国際コミュニケーション学科 | 准教授  | 山本 薫   |
| 人間看護学部        |      |        |
| 人間看護学科        | 教授   | 伊丹 君和  |
|               | 講師   | 関 恵子   |
|               | 講師   | 千田 美紀子 |
| 地域共生センター      |      |        |
|               | 教授   | 鶴飼 修   |
|               | 特任講師 | 上田 洋平  |
|               | 副主幹  | 秦 憲志   |

| 地域共生センター運営委員 |     |        |
|--------------|-----|--------|
| 環境科学部        | 教授  | 伴 修平   |
|              | 講師  | 吉川 直樹  |
| 工学部          | 教授  | 奥 健夫   |
|              | 教授  | 岸根 桂路  |
|              | 教授  | 京樂 真帆子 |
| 人間文化学部       | 教授  | 塚本 カナ江 |
|              | 教授  | 小林 孝子  |
| 人間看護学部       | 准教授 | 小林 孝子  |
| 事務局          | 課長  | 小椋 茂   |

| 近江楽座専門委員会（※委員長） |     |        |
|-----------------|-----|--------|
| 環境科学部           |     |        |
| 環境生態学科          | 教授  | 浦部 美佐子 |
|                 | 准教授 | 林 宰司   |
| 環境政策・計画学科       | 准教授 | 平岡 俊一  |
|                 | 講師  | 迫田 正美  |
| 工学部             |     |        |
| 機械システム工学科       | 准教授 | 河崎 澄   |
| 電子システム工学科       | 教授  | 柳澤 淳一  |
| 人間文化学部          |     |        |
| 地域文化学科          | 教授  | 石川 慎治  |
|                 | 教授  | 佐藤 亞聖※ |
| 生活デザイン学科        | 准教授 | 佐々木 一泰 |
|                 | 准教授 | 原 未来   |
| 人間看護学部          |     |        |
| 人間看護学科          | 教授  | 伊丹 君和  |
|                 | 准教授 | 米田 照美  |
| 地域共生センター        |     |        |
|                 | 教授  | 鶴飼 修   |

| SDGs 専門委員会委員 |         |       |
|--------------|---------|-------|
| 地域共生センター     | センター長   | 中嶋 毅  |
| 環境科学部        | 講師      | 畑 直樹  |
| 工学部          | 教授      | 門脇 光輝 |
| 人間文化学部       | 教授      | 横田 尚美 |
| 人間看護学部       | 准教授     | 米田 照美 |
| 地域共生センター     | 教授      | 鶴飼 修  |
|              | 特任講師    | 上田 洋平 |
|              | 事務局各課職員 | —     |



## 3-2 教職員の活動

### 3-2-1 受賞、著書、論文

- (1) 鵜飼修, 程尾好貴, 田中惇敏. 「空き家対策におけるコレクティブ・インパクトモデルの提示」都市住宅学(117・118) 133 - 138 (2024 年)
- (2) 田中惇敏, 鵜飼修 「多様な主体の参画による子育て拠点の創造プロセス」都市住宅学(117・118) 139 - 146 (2024 年)
- (3) 上田洋平 「ミライリポート SDGs 企業に学ぶ⑨・「100 年前」が生み出す未来、『信用保証レポート 2024 年夏号』滋賀県信用保証協会(2024 年 7 月)
- (4) 上田洋平 「ミライリポート SDGs 企業に学ぶ⑩・する責任を担い、感謝の循環を生み出す 『信用保証レポート 2025 年冬号』滋賀県信用保証協会(2025 年 1 月)
- (5) 谷口嘉之 「経験知に基づく大学の地域連携プロセスモデルの提案-地域連携コーディネーターの志向と行動様式に関する調査からの展望-」日本地域政策研究(34)80-88 (2025 年 3 月)

### 3-2-2 学会発表

- (1) 谷口嘉之 「パターン・ランゲージにより大学地域連携のビジョンと実践をつなぐ試み」地域政策学会 第 16 回【名古屋】大会 (2024 年 9 月 8 日)

### 3-2-3 研究会、講演会、特別講義等での発表

- (1) 上田洋平 2024.4.15 伊藤忠商事新入社員研修 地域から何を学ぶか〜湖国滋賀の人と暮らしは物語る」
- (2) 上田洋平 2024.4.16 甲西高校 こなん・こうか地域ゼミ「ともに未来をえがくために一探究のはじまり」
- (3) 谷口嘉之 2024.4.25・26 桜花学園高等学校 SDGs のつながりを考える ～再生可能エネルギーを始点に SDGs をみる～
- (4) 上田洋平 2024.5.25 守山市 市民参加と協働のまちづくりフォーラム・まちづくりリーダー研修会「ここで、ともに、無事に生きる―多世代で共に育む地域の未来」
- (5) 上田洋平 2024.7.20 守山市赤野井町 赤野井歴史の会公開例会「歴史とのつながり―ふるさと絵屏風作成に向けて」

(6) 上田洋平 2024.9.14 長浜市社会福祉協議会 長浜地域福祉塾「ここで・ともに・ぶじに・いきる―多世代で共に育む地域の未来」

(7) 2024.9.24 エッセンスフォーラム「ウェルビーイングの解像度を高めるために」

(8) 上田洋平 2024.10.29 京都府丹後教育局 令和 6 年度丹後地方社会教育員連絡協議会 第 3 回研修会「居合わせから仕合わせを―まぜて・ちらして・つないでつくる丹後地域のビジネスモデル」

(9) 上田洋平 2024.11.2 日野町西大路地区ふれあい講演会

(10) 上田洋平、谷口嘉之 2024.11.16 長浜バイオ大学・びわ湖東北部地域連携協議会「近江での SDGs の実践」

(11) 上田洋平 2024.12.5 (一社)労働者福祉協議会 2024 年度合同研修会「まぜて・ちらして・つなぐ―多世代・多分野共創によるビジネスモデルを地域から」

(12) 上田洋平 2024.12.7 長崎県小値賀アイランドツーリズム「小値賀アイランドツーリズム「ふるさと絵屏風とは」

(13) 上田洋平 2024.12.21 静岡県松崎町「ふるさと絵屏風による地元学」

(14) 上田洋平 2025.1.15 奈良県社会教育学校「まぜて・ちらして・つなぐ―多世代共創による持続可能な地域づくり」

(15) 上田洋平 2025.1.31 草津市生涯学習課 第3回草津市学びの支援講座「居合わせから仕合わせを―まぜて・ちらして・つないでつくる地域の未来」

(16) 上田洋平 2025.2.15 滋賀県教育委員会 北の近江振興 高校生サミット パネルディスカッション「北部を盛り上げよう」

(17) 2025.2.22 琵琶湖博物館 びわ博セミナー「新琵琶湖学」

(18) 上田洋平 2025.3.2 日野町人権啓発推進連絡協議会 日野町人権委員交流研修会

---

### 3-2-4 社会への貢献(各種委員会など)

---

#### ◆鵜飼 修

- (1)大阪経済大学 非常勤講師
- (2)公益財団法人東近江三方よし基金 東近江市コミュニティビジネススタートアップ支援事業選考委員およびアドバイザー
- (3)彦根市子ども未来部 令和6年度彦根市重層的支援体制整備事業に係る事業評価における助言者(アドバイザー)

#### ◆上田洋平

- (4)国立大学法人滋賀大学 非常勤講師
- (5)びわこ成蹊スポーツ大学 非常勤講師
- (6)長浜バイオ大学「近江でのSDGsの実践」講師
- (7)近畿財務局大津財務事務所近畿財務局アドバイザー
- (8)国土交通省近畿地方整備局「丹生ダム建設事業の中止に伴う地域整備」に関するファシリテーター
- (9)滋賀県文化スポーツ部 滋賀県文化審議会委員
- (10)滋賀県教育委員会 しがアントレプレナーシップハイスクール事業における連絡協議会委員
- (11)滋賀県琵琶湖環境部 マザーレイクゴールズ推進委員会 委員
- (12)滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター評議員
- (13)滋賀県農政水産部 滋賀県ふるさと・水と土保全対策推進懇話会委員
- (14)滋賀県 死生懇話会 ファシリテーター
- (15)滋賀移住・交流促進協議会 会長
- (16)滋賀県社会教育委員会 副議長
- (17)大津市協働を進める三者委員会 副委員長
- (18)彦根市産業部指定管理者候補者選定委員会 委員
- (19)彦根市観光文化戦略部指定管理者選定委員会委員
- (20)彦根市歴史的風致維持向上協議会委員
- (21)野洲市総合計画・総合戦略評価委員会 副委員長
- (22)湖南市景観審議会 委員
- (23)湖南市ふれあい公園づくり検討委員会 委員
- (24)高島市社会教育委員の会議 委員長
- (25)高島市協働提案事業審査委員会委員長
- (26)市民大学たかしまアカデミーコーディネーター

- (27)米原市教育委員会米原市社会教育委員会 副委員長
- (28)米原市市勢要覧作成業務プロポーザル審査委員会 委員長
- (29)米原市ルッチまちづくり大学コーディネーター
- (30)びわこ放送株式会社番組審議会 委員

#### ◆西岡孝幸

- (31)滋賀労働局 地域雇用活性化推進事業地域支援アドバイザー
- (32)大津市 地域ビジネス支援アドバイザー

#### ◆秦 憲志

- (33)滋賀県総合企画部「滋賀県協働プラットフォーム」のコーディネーター

#### ◆谷口嘉之

- (34)彦根市立若葉小学校 学校運営協議会委員
- (35)滋賀県立河瀬中学校・高等学校 運営協議会委員
- (36)長浜市未来創造部南長浜地域まちづくり検討会議委員
- (37)高島市政策部サステナブル高島ネットワーク会議委員
- (38)SDGs Quest みらい甲子園事務局「SDGs Quest みらい甲子園関西エリア大会」実行委員会
- (39)米原市 米原市地域創造支援事業プレゼン審査会委員
- (40)長浜市市民協働部 長浜市市民活動団体支援事業審査会委員
- (41)彦根市立若葉小学校 学校運営協議会委員
- (42)桜花学園高等学校 SDGs出前講座 新入生オリエンテーション講義 講師

---

### 3-2-5 マスメディアとの対応

---

- (1)鵜飼修 2024/11/8 町地域おこし協力隊員 岩下さん 草津の焼酎を原酒に開発 多賀産ビーツでリキュール 30年前廃業の酒蔵で製造 改装費用 CFで募る 中日新聞
- (2)上田洋平 2025/1/11 携帯型ゲーム 古今東西一堂 彦根で企画展、119種を紹介 京都新聞
- (3)鵜飼修 2025/2/17 ボードゲームで地域交流 彦根県立大生が企画、親子ら参加 中日新聞

### 3-3 2024 年度教職員メッセージ

#### ◆鶴飼 修◆

2024 年度は、私にとって多賀町大滝地区での取り組みがこれまで以上に深まり、その成果と可能性を実感する一年となりました。大滝は、豊かな里山環境と、そこに暮らす人々の営みが今なお息づく地域です。私はこれまで、地域診断法を基盤に地域課題の解決に向けたさまざまな取り組みを推進してきましたが、今年度は一歩踏み込み、地域資源を活用した具体的な実践が新たな段階に入ったと感じています。

特に、「里山資源を活用したクラフトリキュール開発」は、本年度の中心的な取り組みでした。多賀町産ビーツをはじめ、滋賀の里山で育てられた素材を生かしたリキュールは、単に商品をつくることが目的ではなく、里山の価値や営みを“もう一度見える化”し、地域の誇りとして共有するための試みです。商品の物語性を議論しながら試作を重ね、クラウドファンディングにも挑戦しました。このプロセスそのものが、地域の新しいつながりを育む場となりました。

教育面では、大学院の近江環地域再生学座や学部地域教育プログラムにおいて、地域診断法やコミュニティ・ビジネスのノウハウを教授し、多くの学生に地域の価値の捉え方や活用方法を伝えることができました。

研究面では、空き家対策の仕組みに関する研究成果を論文としてまとめました。宮城県気仙沼市で活躍する田中惇敏君と協働し、コレクティブ・インパクトの概念を用いた空き家対策の組織モデル、またオートポイエーシスの概念を応用した空き家のリノベーションプロセスのモデルを提示することができました。

2024 年度の取り組みを振り返ると、大滝でのプロジェクトは単なる商品開発にとどまらず、地域に眠る資源を発見し、それを未来へとつなぐための“地域づくりの実験場”として機能し始めていると強く感じています。地域の人々の姿勢、学生の学び、大学の関わりの積み重ねが、新たな循環：地域循環共生圏を生み出そうとしているのです。

2025 年度も、地域の暮らしや文化に寄り添いながら、地域の価値を次の世代へつなぐ取り組みを着実に進めてまいります。

#### ◆上田 洋平◆

学生時分に「心象図法」という地域学の手法を開発してから間もなく25年になる。この間50余の地域で60点を超え

る「ふるさと絵屏風」がつくられた。今年度も彦根の日夏、長浜の余呉で新たに完成し、長崎の小値賀、伊豆の松崎、守山の赤野井で制作プロジェクトが立ち上がった。

地域で制作された絵屏風のうちそこそこの数は100年、さらにそのうちのいくつかはうまくすれば300年程度先まで地域で残るだろう。

ふるさと絵屏風プロジェクトはライフワークなので死ぬまで終わることはないが、四半世紀の集大成をせねばならない。

「地域学は自分学である」というのは、亡き師匠の言葉である。曹洞宗の開祖道元も「仏道をならふというは自己をならふなり、自己をならふといふは自己をわするなり、自己をわするるといふは万法に証せらるなり、万法に証せらるるといふは、自己および他己の心身をして脱落せしむるなり」と言っている。すべて学問研究は多かれ少なかれ「自分学」でもあるわけだが、道のはじめて師の言葉をシャワーのように浴び続けた結果、自分の地域学と自分の生とが皮膚と肉のように癒着してしまった。「わたしの地域学」を「みんなの地域学」へと昇華するためには、この肉と皮を引きはがし、「自分学」から脱落・解脱(unlearning)しなければならないのだが、根っからアクティビスト属性の者にとってはこれが難しい。今年度試みて破綻した。リハビリして再起動せねばならない。心象図法をはじめて学会で紹介した時、偉い先生から「きみの手法はきみの人格と一体となったものなので活動家としては良いけれど研究者としては苦勞することになるよ」と言われたがその予言どおりになった。「私の見ているものを見たいなら私(の生き方)を見てください」というのは学問(学者)ではなく宗教(教祖)である。

カリスマは往々にして当人の縮小コピーを再生産するが、教育(者)は当人を超える者たちを生み出す。地域ではしばしば「担い手を」と言って、ともすれば若者の背に自分らの重荷を乗せ換えようとするが、大事なのは乗り越える彼らのための跳躍版になることである。そして幸いにして今年も大きな跳躍が期待できる学生たちのお供をすることができた。自分が学生だった時にここまでできただろうか、と考えると、学生諸君はすでに我々を飛び越えているように見える。

担当の授業、例えば「地域デザインA」では、今年度も滋賀県の政策研修センターと連携して、研修プログラムの一環として県職員を受入れ、学生と職員とがともに学ぶという形をとることができた。日野町と連携して開講した「地域デザインB」の受講生の中から、授業をきっかけに同町への就職を目指す者も現れた。関わっている市民大学も勘定に入れるとお



そらく毎年100人近いゲスト講師にお世話になっている。人材のキャスティングと手配・調整に明け暮れる日々だが、多様かつ多世代の人びとが居合わせる「人材のエコトーン」から「学びのエコシステム」を生み出すために、引き続き多様な人びとと共に、「まぜて・ちらして・つなぐ」地域教育プログラムを仕掛けていきたい。

各種委員会、審議会、審査会、講演・講座では、引き続き実に多様な分野・地域からご用命いただき、政策形成やまちづくりに関する生きた状況・情報に触れることができた。近年は社会教育と協働に関わる分野からのお声が多い。支援してきた「市民大学・たかしまアカデミー」では1期生が卒業された。これらも大事なフィールドワークの機会として、そこで得た学びや縁を教育や研究に還元していきたい。

#### ◆谷口嘉之◆

2024年度は地域連携コーディネーターの役割について改めて考える機会を得ました。大学院での研究成果をもとに「大学地域連携コーディネーターのためのパターン・ランゲージ」というカードツールを作成し、全国の大学の地域連携コーディネーターが参加しているネットワークが主催するセミナーで、このカードを使ったワークショップを開催しました。パターン・ランゲージ事態の完成度とワークショップの進行に課題があり、自分としては少し残念な結果でしたが、どのようにコーディネーターのスキルを高め、人材を育成していけばよいかという長年検討されてきた問いには一つの方向性を示せたのではないかと思います。

9月には地域活性学会での研究発表、3月には地域政策学会の学会誌に研究ノートとして投稿した論文が掲載され、上記の問いに対して研究を進めていくための基盤ができたのではないかと考えています。大学と地域の連携については、大学の特性と地域独自の課題の掛け合わせにより、その進め方や調整の仕方が大きく変わるので、画一的なコーディネーションのマニュアルをつくることは難しいと思われます。様々な状況に対応できるコーディネーターを育成するためには、全国のコーディネーターが蓄積した経験知・実践知をお互いに出し合い、その対話の中から共通項を見出し、コーディネーションの本質をつかむことが重要だと考えています。今後も大学の1人のコーディネーターとして日々の実践を重ねながらより良い大学と地域の連携構築に寄与していきたいと考えています。

#### ◆田中 惇敏◆

2025年度より、滋賀県立大学地域共生センターに特任講師として着任いたしました。これまで私は、宮城県を中心に、自治体、企業、NPOなど多様な団体の皆さまと関わりながら、地域を基盤とした社会事業や人材育成の取り組みに携わってきました。現場で生まれる実践や試みが、どのように制度や仕組みと結びつき、持続可能な地域の営みへとつながっていくのか。そのプロセスに関心を持ち、研究と実践を往復する形で活動を続けてきました。

地域共生センターは、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」という本学の理念を体現する拠点であり、近江楽座をはじめとする地域教育プログラムや、近江楽士・近江環人といった人材育成の取り組みを通じて、長年にわたり地域と大学を結びつけてきました。学生が地域の現場に入り、正解のない問いに向き合いながら学ぶ姿は、大学教育の可能性を大きく広げていると感じています。

私自身も、滋賀県内の団体の皆さまとご一緒しながら、社会人を対象としたリカレント教育や、実践と学びを往復するプログラムの企画・運営に関わってきました。学生、行政職員、企業人、市民が同じ場で語り合い、それぞれの立場や経験を持ち寄ることで、教室の中だけでは得られない学びが生まれることを、現場で実感してきました。地域共生センターは、まさにそうした「立場を越えて学び合う場」を育んできた存在だと感じています。

今後は、複数の主体が関わる地域課題において、どのように協働のプロセスを設計し、関係性を育てていけるのかという視点から、教育・研究・地域連携に取り組んでいきたいと考えています。学生が一過性の経験にとどまらず、地域と関わり続けながら学びを深めていけるような環境づくりを、皆さまと共に模索していければ幸いです。

これまで地域共生センターの活動を支えてこられた地域の皆さま、自治体・関係団体の皆さま、そして学内の教職員の皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。今後も本学が、地域と共に学び、共に未来を描く場であり続けられるよう、微力ながら尽力してまいります。



#### 滋賀県立大学SDGs宣言

- S 滋賀県立大学は「キャンパスは持続。テキストは人間。」をモットーに
- D 誰一人取り残さない持続可能な社会を目指し
- G グローカルな思考と実践をもって
- S 世界と地域の発展に貢献します